

バブル後の日本とアメリカ

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらは新しい経済の潮流と現実の創造をアメリカが行ったことに対して、日本はそれへの追随を唯一としたことの相違性と考えるべきである。

これらへの考察は創造性と独創性という新しい経済の現実である。アメリカの風土は驚嘆すべき現実なのである。

他方において今日、新しい技術進歩における経済の現実が存在する。これらは創造性と技術というプレゼンスを完全にアメリカが独占しているのである。

日本企業の隆盛というバブル時代の現実への考察は、その価格アドバンテージと製品力において、市場を席卷したものである。

しかし今日の現実には価格アドバンテージにおいて第3諸国がこれらを有し、技術の優位性においてアメリカがこれを有するのである。

これらは市場環境が完全に変わったことを意味するのである。

これらはグローバル化における経済は、その先端性が牽引するものである。その先端性はアメリカが独占しているのである。

これらは彼らの創造性に寄るものであり、これらは彼らの企業哲学に起因するところが大きいのである。

アメリカの風土とその創造性は、新しい未来を希求しているのである。これらは新しい世界の現実であり、それにおいて企業は自己を行う以外選択はないのである。

これらは企業転換がそれら創造性を自己に抱き、現実への参加を行うとき、現実との対等性が可能なのである。

これら企業基準は新しい企業の可能性を可能とするのである。